

朝、空き家の庭でパタパタッと音がしました。軒下に野良猫がいて、そばに羽毛の塊があります。そして突如、うずくまっていたシロハラが飛び立ったのです。近くには、鳥に食われたかもしれないカマキリが悠然とたたずんでいました。

生と死を分ける弱肉強食の現場を見た年末、種子島あかおぎ大学文化講座「西村天囚の愛読した古典」で、湯浅邦弘・大阪大学教授が講義した「よりよく生きるための言葉」がいくつか心に残りました。

まずは『論語』からです。

君子くんしは人の美を成なし、人の悪を成なさず

他人の美点を成就させ、短所を助長することとはしない。いいところを見つけて接する。教育の基本です。

次は『韓非子』です。

三人さん言いいて虎とらを成なす。

「虎が出た」と三人言え、本当にいることになってしまふ。陰謀論、フェイクニュースの危険性。真実、真の情報を見極めることが大切です。情報化社会にあつて、便利なものには落とし穴もあると戒めます。

三つ目は『老子』です。

学まなを絶たてば憂うれい無なし。

学ぶのをやめればすっきりする。意外な言い方ですが、儒家が勉学の大切さを説くのに対し、老子は無為自然が人間のあるべき姿だと言います。頑張りすぎると心が折れる。こうしなければならぬという常識を疑うこと、アクセルとともにブレーキをかけることも必要だとの講義に、私も救われる思いでした。

西村天囚の研究を続ける湯浅教授は、歴史と古典を見直し、「思考の引き出しを増やす」ことを勧めます。郷土の文化遺産は、しっかりと継承したいものです。



大きな眼でたたずむカマキリ